

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和2年1月16日(2020.1.16)

【公表番号】特表2019-503998(P2019-503998A)

【公表日】平成31年2月14日(2019.2.14)

【年通号数】公開・登録公報2019-006

【出願番号】特願2018-529102(P2018-529102)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/16	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	39/12	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2015.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	31/713	(2006.01)
A 6 1 K	31/711	(2006.01)
A 6 1 K	31/7105	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 P	31/14	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	37/04	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/04	(2006.01)
A 6 1 P	19/02	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	11/06	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
C 0 7 K	14/47	(2006.01)
C 1 2 N	15/12	(2006.01)
C 1 2 N	15/86	(2006.01)
C 1 2 N	15/113	(2010.01)
C 1 2 N	15/115	(2010.01)
C 1 2 N	15/13	(2006.01)
C 0 7 K	14/56	(2006.01)
C 0 7 K	14/565	(2006.01)
C 0 7 K	14/525	(2006.01)
C 1 2 N	7/00	(2006.01)
C 1 2 Q	1/06	(2006.01)
C 0 7 K	16/18	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	Z N A
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	38/16	
A 6 1 K	39/395	N

A 6 1 K	39/12
A 6 1 K	35/76
A 6 1 K	31/7088
A 6 1 K	31/713
A 6 1 K	31/711
A 6 1 K	31/7105
A 6 1 P	31/12
A 6 1 P	31/14
A 6 1 P	29/00
A 6 1 P	37/06
A 6 1 P	37/04
A 6 1 P	35/00
A 6 1 P	1/04
A 6 1 P	29/00
	1 0 1
A 6 1 P	19/02
A 6 1 P	25/00
A 6 1 P	11/06
A 6 1 P	11/00
A 6 1 P	3/10
A 6 1 P	17/02
C 0 7 K	14/47
C 1 2 N	15/12
C 1 2 N	15/86
C 1 2 N	15/113
C 1 2 N	15/115
C 1 2 N	15/13
C 0 7 K	14/56
C 0 7 K	14/565
C 0 7 K	14/525
C 1 2 N	7/00
C 1 2 Q	1/06
C 0 7 K	16/18
A 6 1 K	39/00
	H

## 【手続補正書】

【提出日】令和1年12月2日(2019.12.2)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

C 6 o r f 1 0 6 タンパク質活性を改変する化合物を含む、対象における免疫応答及び  
/又はサイトカイン産生を調節するための組成物。

## 【請求項2】

前記化合物がC 6 o r f 1 0 6 タンパク質活性を増大させ、前記免疫応答及び/又はサ  
イトカイン産生が減少し、場合により

増大したC 6 o r f 1 0 6 タンパク質活性が I R F 3 依存性サイトカイン転写を減少さ  
せる、請求項1に記載の組成物。

## 【請求項 3】

前記化合物が、ポリヌクレオチドであり、そして前記ポリヌクレオチドが、以下の：

i) 配列番号 1 ~ 11 のいずれか 1 つ以上に少なくとも 50 % 同一であるアミノ酸配列又はその生物学的に活性なフラグメントを含むポリペプチドをコードし；

ii) 前記対象における前記ポリヌクレオチドの発現を指揮するプロモータに機能的に連結され；

iii) 発現ベクター中で投与され、

iv) 配列番号 1 ~ 11 のいずれか 1 つ以上に対して少なくとも 50 % 同一であるアミノ酸配列又はその生物学的に活性なフラグメントを含み、

ここで、前記生物学的に活性なフラグメントが、機能的無秩序領域を欠いている、うちの 1 又は複数の特徴を含む、請求項 1 又は 2 に記載の組成物。

## 【請求項 4】

前記化合物が C6orf106 タンパク質活性を低下させ、前記免疫応答及び / 又はサイトカイン産生が増加し、そして場合により

前記化合物が、C6orf106 と IRF3 を含む複合体の形成を減少させ、及び / 又は

C6orf106 タンパク質活性の低下が IRF3 依存性サイトカイン転写を増加させる、請求項 1 に記載の組成物。

## 【請求項 5】

前記化合物が、ポリヌクレオチドであり、そして前記ポリヌクレオチドが以下の：

i) C6orf106 遺伝子の発現を減少させ

ii) アンチセンスポリヌクレオチド、センスポリヌクレオチド、C6orf106 と結合するポリペプチドをコード化するポリヌクレオチド、二本鎖 RNA 分子又はそれに由来するプロセッシングされた RNA 分子から選択され、

iii) 前記対象に投与された導入遺伝子から発現され、

iv) C6orf106 に結合し、C6orf106 タンパク質活性を低下させ；

v) RNA アプタマー、DNA アプタマー、又は XNA アプタマーである、

うちの 1 又は複数の特徴を含む、請求項 4 に記載の組成物。

## 【請求項 6】

前記免疫応答及び / 又はサイトカイン産生が、以下の：

i) INF 应答；

ii) I 型 INF 应答；

iii) 前記サイトカインが INF- 、 INF- 及び TNF- のうちの 1 つ、それ以上、又は全部である

iv) 抗ウイルス免疫応答、

v) 自己免疫応答、

vi) 炎症反応

うちの 1 又は複数の特徴から選ばれる、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の組成物。

## 【請求項 7】

前記対象が以下の疾患：感染、免疫不全、自己免疫疾患、炎症性疾患又はがんのうちの 1 つ以上を有する、請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の組成物。

## 【請求項 8】

前記感染がウイルス感染であり、場合によりマイナス鎖 RNA ウイルスであり、及び / 又は

前記ウイルスが、オルトミクソウイルス、レトロウイルス、ヘルペスウイルス、パラミクソウイルス、ラブドウイルス、フィロウイルス、ボルナウイルス及びコロナウイルスから選択され、又は

ここで

前記自己免疫疾患が、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、関節リウマチ、多

発性関節炎、多発性硬化症、ブドウ膜炎、喘息、1型糖尿病、2型糖尿病、狼瘡又は慢性閉塞性肺疾患から選択される、請求項7に記載の組成物。

【請求項9】

前記対象が、ウイルス及び／又は癌に対する免疫応答を刺激する少なくとも1の抗原を投与される、請求項8に記載の組成物。

【請求項10】

C6orf106が、配列番号1～11のいずれか1つと少なくとも50%同一であるアミノ酸配列を含む、請求項1から9のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項11】

前記対象が哺乳類又は鳥類である、請求項10に記載の組成物。

【請求項12】

C6orf106タンパク質活性を低下させる化合物を含むウイルス感染又はがんの治療において使用するための組成物。

【請求項13】

C6orf106タンパク質活性を増大させる化合物を含む、自己免疫疾患の治療において使用するための組成物。

【請求項14】

C6orf106タンパク質活性を改変する化合物を同定する方法であって、

i)細胞を候補化合物と接触させ、そして  
ii)前記化合物が前記細胞においてC6orf106タンパク質活性を増加又は低下させるかを判定すること、及び／又は

iii)前記化合物が、前記細胞においてIRF3依存性サイトカイン転写を増加させるか又は低下させるかを判定すること

を含む、前記方法。

【請求項15】

C6orf106と結合する化合物を同定する方法であって、

i)配列番号1～11のいずれか1つと少なくとも50%同一であるアミノ酸配列又はその生物学的に活性なフラグメントを含むポリペプチドを候補化合物と接触させ、そして

ii)前記化合物が前記ポリペプチドと結合するか否かを判定すること  
を含む、前記方法。

【請求項16】

C6orf106タンパク質活性を改変する化合物をコンピュータで同定する方法であって、

i)配列番号1～11のいずれか1つと少なくとも50%同一であるアミノ酸配列又はその生物学的に活性なフラグメントを含むポリペプチドの三次元構造モデルを作成すること、及び

ii)前記構造に潜在的に結合する化合物について設計又はスクリーニングすること、及び／又は

iii)C6orf106とIRF3とを含む複合体の形成を減少させる化合物について設計又はスクリーニングすること  
を含む、前記方法。

【請求項17】

天然に存在する分子と比べて改変された活性を有する、天然に存在するC6orf106ポリペプチドの単離及び／又は組換え変異体。

【請求項18】

請求項17に記載の単離及び／又は組換え変異体をコード化する単離及び／又は外因性ポリヌクレオチド。